

高齢者を取り巻く現状

1 高齢化率

本市は政令市中最も高齢化が進んでいる（表1）。

表1 年齢3区分人口（政令指定都市）

	総数	年齢3区分人口						従属人口 指数 ^{※1}
		15歳未満		15～64歳		65歳以上		
札幌市	1,960,668	214,424	10.9%	1,197,714	61.1%	548,530	28.0%	63.7
仙台市	1,065,365	129,185	12.1%	673,758	63.2%	262,422	24.6%	58.1
さいたま市	1,332,226	172,352	12.9%	851,210	63.9%	308,664	23.2%	56.5
千葉市	976,328	113,059	11.6%	607,218	62.2%	256,051	26.2%	60.8
横浜市	3,755,793	443,662	11.8%	2,380,035	63.4%	932,079	24.8%	57.8
川崎市	1,522,390	189,932	12.5%	1,025,813	67.4%	306,645	20.1%	48.4
相模原市	719,112	82,951	11.5%	447,611	62.2%	188,550	26.2%	60.7
新潟市	779,613	91,422	11.7%	454,444	58.3%	233,747	30.0%	71.6
静岡市	689,079	77,144	11.2%	400,485	58.1%	211,450	30.7%	72.1
浜松市	795,771	100,702	12.7%	470,709	59.2%	224,360	28.2%	69.1
名古屋市	2,293,437	280,017	12.2%	1,439,220	62.8%	574,196	25.0%	59.4
京都市	1,388,807	153,534	11.1%	839,713	60.5%	395,560	28.5%	65.4
大阪市	2,732,197	296,350	10.8%	1,750,849	64.1%	684,998	25.1%	56.0
堺市	826,158	102,058	12.4%	489,938	59.3%	234,158	28.3%	68.6
神戸市	1,517,627	178,739	11.8%	904,619	59.6%	434,269	28.6%	67.8
岡山市	704,487	91,964	13.1%	424,724	60.3%	187,799	26.7%	65.9
広島市	1,189,149	157,431	13.2%	724,337	60.9%	307,381	25.8%	64.2
北九州市	936,586	113,179	12.1%	531,650	56.8%	291,754	31.2%	76.2
福岡市	1,568,265	208,211	13.3%	1,011,867	64.5%	348,187	22.2%	55.0
熊本市	731,722	100,863	13.8%	434,740	59.4%	196,119	26.8%	68.3
福岡県	5,108,507	674,870	13.2%	3,010,813	58.9%	1,422,731	27.9%	69.7

【出所】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（令和4年1月1日現在）」

年齢不詳者は年齢区分別人口に含まない

※1 従属人口指数=(15歳未満+65歳以上)/15～64歳×100

【出典】北九州市少子高齢化の現状（北九州市保健福祉局）

【出所】総務省「国勢調査」（各年10月1日現在）

2 平均寿命と健康寿命

平成 22 年から令和元年の本市の健康寿命の伸びは、男女とも平均寿命の伸びを上回っている（表 2）。

表 2 本市の平均寿命と健康寿命

	男性		女性	
	平均寿命	健康寿命	平均寿命	健康寿命
H22	78.85	68.46	86.20	72.20
R1	80.44	71.94	87.06	75.63
伸び	1.59	3.48	0.86	3.43

【出典】完全生命表（厚生労働省）、健康寿命における将来予測と生活習慣病予防対策の費用対効果に関する研究（厚生労働省科学研究）

3 社会保障給付費

本市の一人あたり医療費は、国保、後期高齢者とも全国より高く、政令市の中でも高額である（表 3）。

表 3 一人あたりの医療費（年齢調整後、2022 年）

	全国	北九州市	政令市中順位
国民健康保険	363,629 円	398,586 円	4 位
後期高齢者	900,574 円	1,115,208 円	2 位

【出典】医療費の地域差分析（厚生労働省）

高齢者の意識・現状

1 ITリテラシー

(1) インターネット等の活用状況

一般高齢者（調査年度9月1日現在、要支援・要介護認定を受けている人を除く北九州市在住の高齢者）は「スマートフォンを使っている」が、在宅高齢者（調査年度9月1日現在、北九州市在住で、介護保険の要支援・要介護の認定を受けている在宅高齢者）は、「何も使っていない」が最も多かった（表4）。

表4 インターネット等の活用状況（複数回答）

設問	一般高齢者 N=1,686		在宅高齢者 N=1,230	
	%	順位	%	順位
自宅のパソコンを利用している	23.7%	3	7.4%	4
スマートフォンを使っている	42.1%	1	15.9%	3
タブレット端末を使っている	8.0%	5	2.4%	7
携帯電話で電話だけしている	29.8%	2	32.8%	2
何も使っていない	15.6%	4	39.3%	1
その他	1.2%	7	3.2%	6
無回答	3.1%	6	5.6%	5

【出典】令和4年度北九州市高齢者実態調査報告書 P24（北九州市保健福祉局）

(2) インターネット等の利用目的

一般高齢者、在宅高齢者とも「情報を調べるため」、次いで「アプリ利用」が多かった（表5）。

表5 インターネット等の利用目的（複数回答）

設問	一般高齢者 N=856		在宅高齢者 N=246	
	%	順位	%	順位
アプリを利用している	52.6%	2	43.5%	2
ネット通販を利用している	26.6%	4	21.1%	4
SNSを活用し、情報発信している	10.5%	7	8.9%	7
情報を調べるために利用している	80.4%	1	60.2%	1
映像等を視聴するために利用している	34.7%	3	29.7%	3
各種サービス（行政サービスを含む）の登録・変更等に利用している	19.7%	5	16.7%	5
電子マネーを利用している	15.9%	6	6.5%	8
その他	4.8%	8	12.6%	6
無回答	2.9%	9	6.1%	9

【出典】令和4年度北九州市高齢者実態調査報告書 P26（北九州市保健福祉局）

(3) 利用したい講座や制度

自宅のパソコン、スマートフォン、タブレットを使用していると回答した人に、利用したい講座や制度について尋ねたところ、「継続的にスマホ操作等を学習・相談する制度」が最も多かった(表6)。

表6 利用したい講座や制度(複数回答)

設問	一般高齢者 N=856		在宅高齢者 N=246	
	%	順位	%	順位
インターネット等の危険性とその対策を学ぶ講座	25.9%	3	19.1%	3
継続的にスマホ操作等を学習・相談する制度	42.8%	1	43.1%	1
高齢者のデジタル人材育成のためのタブレット講座	5.6%	7	4.9%	6
デジタル機器を活用した行政サービスの活用講座	13.8%	4	13.8%	4
デジタル機器の高齢者サポート指導者の養成講座	7.8%	6	4.9%	6
その他	8.2%	5	13.0%	5
無回答	31.8%	2	34.1%	2

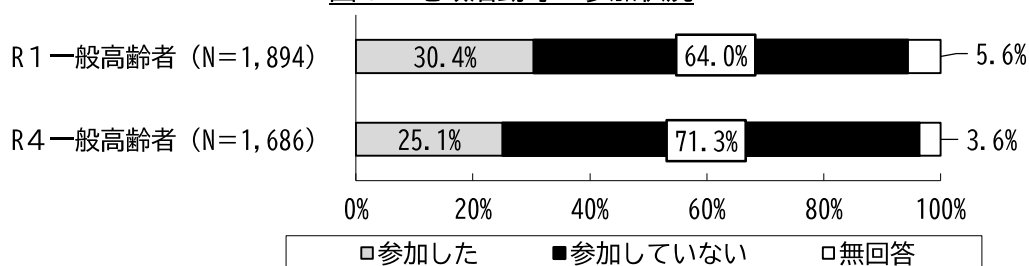
【出典】令和4年度北九州市高齢者実態調査報告書 P28(北九州市保健福祉局)

2 生きがい・社会参加・地域貢献

(1) 地域活動の参加状況

この1年間に地域活動(自治会やまちづくり協議会、老人クラブなど)、または、地域活動以外のボランティアに参加した一般高齢者の割合は25.1%で令和元年度より減少している(図1)。

図1 地域活動等の参加状況



【出典】令和4年度北九州市高齢者実態調査報告書 P19(北九州市保健福祉局)

(2) 高齢者が興味・関心のあること、今後取り組んでみたいこと

興味・関心のあること、今後取り組んでみたいことについて尋ねたところ、一般高齢者では「スポーツや体操、運動などをする事」が最も多く、次いで「特に興味・関心のあることはない」で、在宅高齢者では「特に興味・関心のあることはない」が最多、次いで「スポーツや体操、運動などをする事」となっている（表7）。

表7 興味・関心のあること、今後取り組んでみたいこと（複数回答）

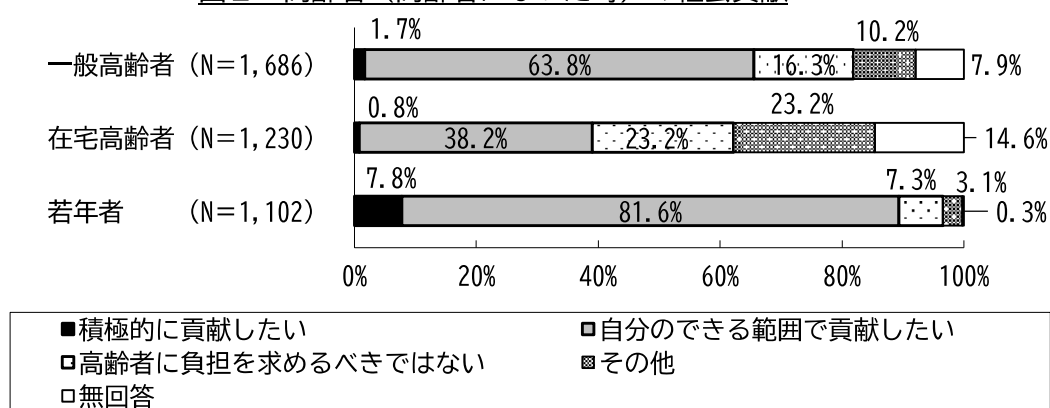
設問	一般高齢者 N=1,686		在宅高齢者 N=1,230	
	%	順位	%	順位
新たな資格や技術を身につけること	3.0%	7	1.2%	7
地域活動やボランティア活動等を通して社会貢献をすること	15.4%	3	4.6%	6
スポーツや体操、運動などをする事	35.8%	1	18.4%	2
芸術・文化活動などをする事	13.7%	4	7.2%	5
特に興味・関心のあることはない	35.6%	2	49.4%	1
その他	8.7%	5	14.4%	3
無回答	7.8%	6	12.7%	4

【出典】令和4年度北九州市高齢者実態調査報告書 P19（北九州市保健福祉局）

(3) 高齢者としての社会貢献

高齢化が進む中、高齢者（高齢者となった時）としての社会貢献について尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者、若年者（調査年度9月1日現在、北九州市在住の40歳～64歳の市民）とも、「自分のできる範囲で社会貢献したい」と回答した者の割合が最も多かった（図2）。

図2 高齢者（高齢者になった時）の社会貢献



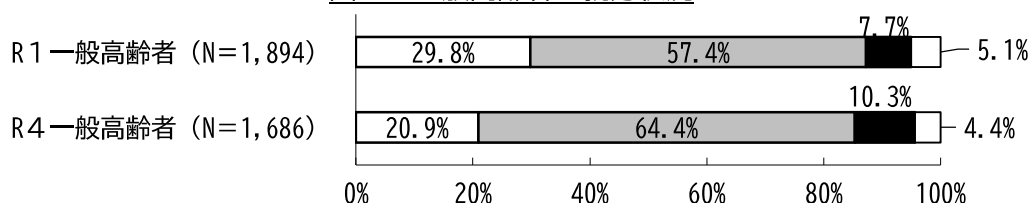
【出典】令和4年度北九州市高齢者実態調査報告書 P21（北九州市保健福祉局）

(4) 就労の状況と目的

就労している高齢者の割合は令和元年度より減少している(図3)。

働いている人が働く理由は「心身の健康維持のため」が最も多くなっている。また「働かないと生活ができないから」、「生活にゆとりが欲しいから」と回答した者は約3割であった(表8)。

図3 一般高齢者の就労状況



□働いている □以前は働いていたが、現在は働いていない ■働いたことがない □無回答

【出典】令和4年度北九州市高齢者実態調査報告書 P22 (北九州市保健福祉局)

表8 働く目的(複数回答)

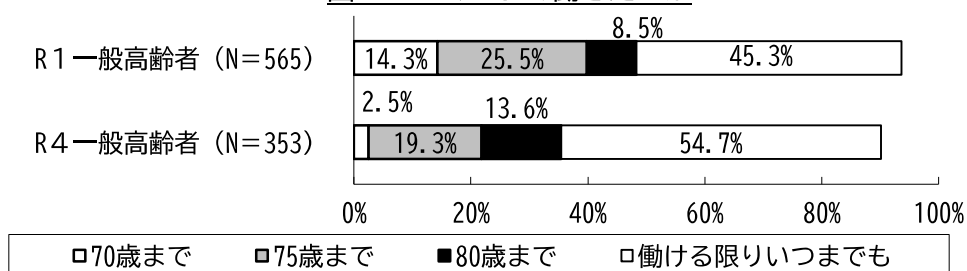
設問	一般高齢者 N=667	
	%	順位
働かないと生活ができないから	32.0%	4
生活にゆとりが欲しいから	32.6%	3
社会とのつながりを保つため	38.2%	2
心身の健康維持のため	54.7%	1
仕事にやりがいを感じているため	31.7%	5
無回答	3.1%	6

【出典】令和4年度北九州市高齢者実態調査報告書 P23 (北九州市保健福祉局)

(5) いくつまで働きたいか

「働いている」と回答した一般高齢者に「いくつまで働きたいか」と尋ねたところ、「働ける限りいつまでも」と回答した者が最も多く、その割合は令和元年度より増加している(図4)。

図4 いくつまで働きたいか



【出典】令和4年度北九州市高齢者実態調査報告書 P23 (北九州市保健福祉局)

3 健康づくり・介護予防

(1) 健康診査の受診状況

市国民健康保険の特定健診受診率は、横ばいであるが福岡県後期高齢者広域連合が行っている後期高齢者健診の本市の受診率は令和元年度に比べて増加している。調査結果では約半数の人が調査回答日前1年間に健康診査を受診している（表9）。

表9 健康診査の受診率

	R1	R2	R3	R4	調査結果
市国保特定健診 (40～74歳)	34.2%	33.5%	34.2%	未確定	67.8% (男性 65～74歳) 63.5% (女性 65～74歳)
後期高齢者健診 (75歳以上)	9.79%	9.96%	13.00%	13.50%	60.8% (男性、75歳以上) 55.4% (女性、75歳以上)

【出典】現状値（北九州市保健福祉局、福岡県後期高齢者広域連合）、令和4年度健康づくり及び食育に関する実態調査報告書 P31（北九州市保健福祉局）
<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/17200491.html>

(2) 歯科健康診査の受診状況

市が健康増進法に基づき実施している歯周病検診の70歳の受診率、福岡県後期高齢者広域連合が行っている後期高齢者歯科健診の本市の受診率は令和元年度に比べて増加している。調査結果では約半数の人が調査回答日前1年間に歯科健康診査を受診している（表10）。

表10 歯周病検診及び後期高齢者歯科健診受診率

	R1	R2	R3	R4	調査結果
歯周病検診（70歳）	8.8%	7.6%	8.7%	9.2%	41.6% (男性 65～74歳) 54.2% (女性 65～74歳)
後期高齢者歯科健診 (76歳)	7.62%	7.56%	6.50%	8.11%	48.0% (男性、75歳以上) 51.6% (女性、75歳以上)

【出典】現状値（北九州市保健福祉局、福岡県後期高齢者広域連合）、令和4年度健康づくり及び食育に関する実態調査報告書 P162（北九州市保健福祉局）

(3) 低栄養傾向の高齢者の割合

BMIが20以下の低栄養傾向の高齢者の割合は、21.8%で平成28年度21.7%と変化は見られなかった。

【出典】令和4年度健康づくり及び食育に関する実態調査報告書 P18（北九州市保健福祉局）

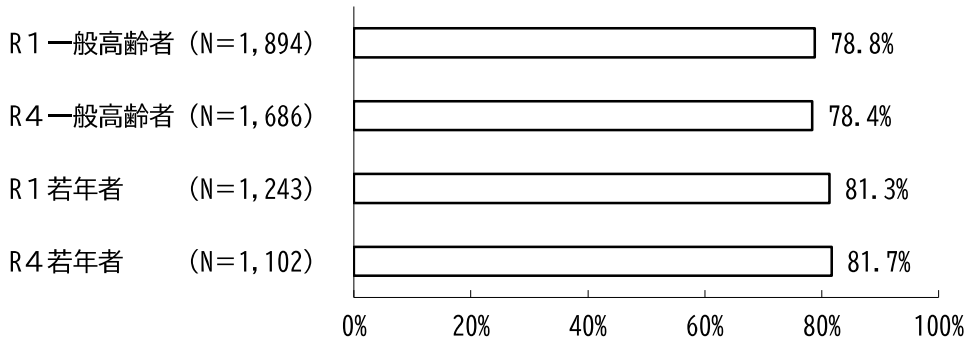
※ 【参考】第二次北九州市健康づくり推進プラン指標

低栄養傾向の高齢者の割合の増加の抑制 BMI20以下の高齢者の割合 R4：20.0%

(4) 健康状態について

健康状態について、普通以上（「よい」、「まあよい」、「普通」）の者の割合は、一般高齢者で 78.4%、若年者で 81.7%と、令和元年度調査とほぼ同じであった（図5）。

図5 健康状態が普通以上（「よい」、「まあよい」、「普通」）の者

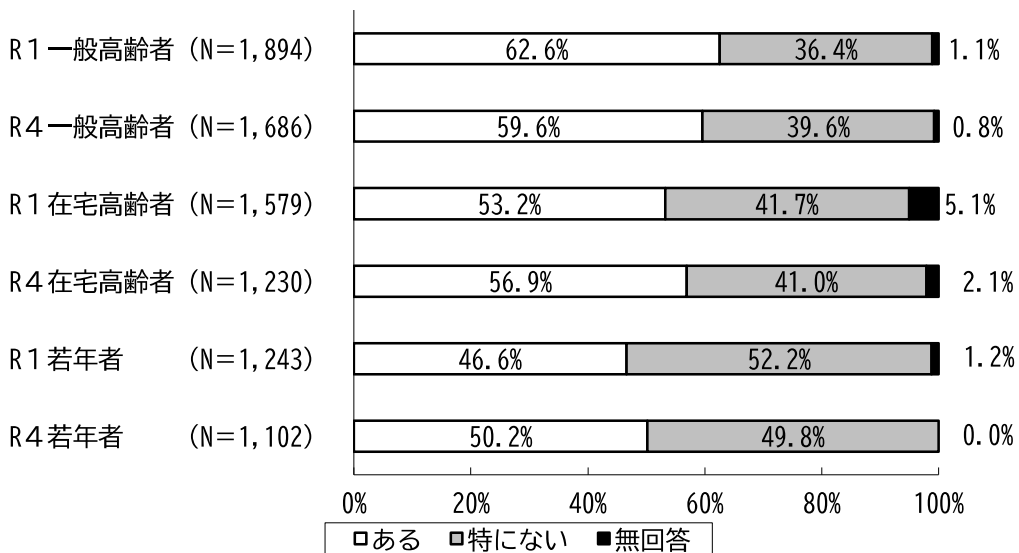


【出典】令和4年度北九州市高齢者実態調査報告書 P7（北九州市保健福祉局）

(5) 健康づくりや介護予防のために日ごろから取り組んでいること

日ごろから取り組んでいることがあると回答した者は一般高齢者 59.6%、在宅高齢者 56.9%、若年者 50.2%で、一般高齢者は令和元年度よりやや減少している（図6）。

図6 健康づくりや介護予防（フレイル予防）の取り組み状況



【出典】令和4年度北九州市高齢者実態調査報告書 P14（北九州市保健福祉局）

(6) 介護予防（フレイル予防）に取り組まない理由

介護予防（フレイル予防）に日ごろから取り組んでいることが「特にない」と回答した人に理由を尋ねたところ、一般高齢者では「どのようなことに取り組んでよいのかわからない」、在宅高齢者では「体力や気力がない」、若年者では「時間的余裕がない」が最も多かった（表 11）。

表 11 介護予防（フレイル予防）に取り組まない理由（複数回答）

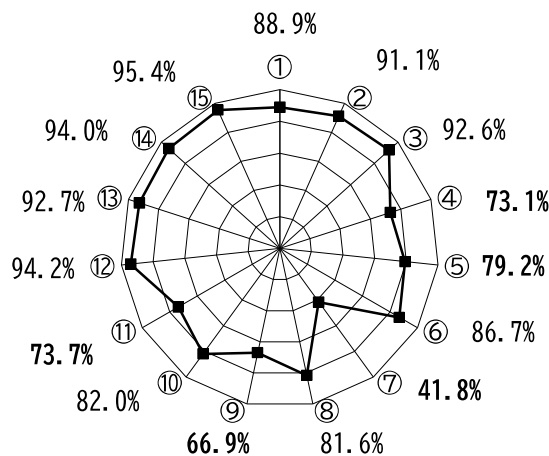
設問	一般高齢者 N=667		在宅高齢者 N=504		若年者 N=549	
	%	順位	%	順位	%	順位
興味・関心がない	24.7%	2	23.2%	3	20.4%	4
体力や気力がない	23.1%	3	43.5%	1	16.2%	5
どのようなことに取り組んでよいのかわからない	40.0%	1	33.9%	2	43.5%	2
時間的余裕がない	11.1%	5	2.8%	5	43.9%	1
金銭的な余裕がない	20.5%	4	12.7%	4	26.6%	3

【出典】令和 4 年度北九州市高齢者実態調査報告書 P18（北九州市保健福祉局）

(7) フレイルリスク

後期高齢者健診受診者の質問票から、高齢者のフレイルリスクをみると、口腔機能、運動機能、認知機能のリスクが他に比べてみられる（図 7）。

図 7 後期高齢者健診質問票からみるフレイルリスク



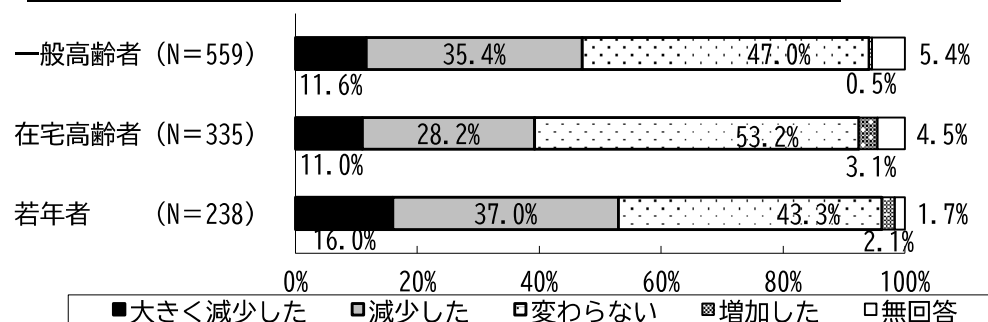
R4 後期高齢者健診受診者（N=16,308） R5.5.10 現在

①あなたの現在の健康状態はいかがですか、②毎日の生活に満足していますか、③1日3食きちんと食べていますか、④半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか、⑤お茶や汁物等でむせることがありますか、⑥6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか、⑦以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか、⑧この1年間に転んだことがありますか、⑨ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか、⑩周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるとされていますか、⑪今日が何月何日かわからない時がありますか、⑫あなたはたばこを吸いますか、⑬週に1回以上は外出していますか、⑭ふだんから家族や友人と付き合いがありますか、⑮体調が悪いときに、身近に相談できる人がいますか

(8) 新型コロナウイルス感染症の影響について

「通いの場」へ参加していると回答した人に対し、新型コロナウイルス感染症流行前と比較した「通いの場」への参加頻度の変化を尋ねたところ、「大きく減少した」、「減少した」と回答した者は、一般高齢者で47.0%、在宅高齢者で39.2%、若年者で53.0%であった(図8)。

図8 「通いの場」参加の新型コロナウイルス感染症流行前比較



【出典】令和4年度北九州市高齢者実態調査報告書 P17 (北九州市保健福祉局)

健康づくり・介護予防の取り組みを進めるために地域に専門職を派遣している事業では、新型コロナウイルス感染症の影響による集いの場などの休止に伴い、派遣回数、参加者数とも令和2年度は令和元年度から大きく減少した。令和4年度も影響が残り、派遣回数は令和元年度の87.9%まで戻ったものの、参加者数は64.7%だった(表12-1)。

表12-1 専門職を派遣している介護予防事業の実施状況

		R1	R2	R3	R4
地域リハビリテーション活動支援事業 (理学療法士・作業療法士派遣)	回数	102	55	87	116
	延べ参加者数	1,643	674	1,001	1,552
尿もれ予防体験会(理学療法士・作業療法士派遣)	回数	14	7	13	15
	延べ参加者数	472	104	204	202
おいしく食べて元気もりもり教室(栄養士派遣)	回数	195	70	78	138
	延べ参加者数	5,924	963	1,597	2,966
健口(けんこう)相談(歯科医師、歯科衛生士派遣)	実施回数	16	0	2	3
	延べ参加者数	348	0	31	83
お口を元気にする出前講演(歯科医師派遣)	実施回数	10	4	7	5
	延べ参加者数	319	90	155	99
健口(けんこう)ストレッチ講座(歯科衛生士派遣)	実施回数	183	45	67	161
	延べ参加者数	5,621	737	1,371	3,745
出張介護予防講座(健康運動指導士派遣)	実施回数	69	32	50	80
	参加者人数	1,837	617	938	1,806
派遣回数計		589	213	304	518
派遣回数対令和元年度比			36.2%	51.6%	87.9%
延べ参加者数計		16,164	3,185	5,297	10,453
延べ参加者数対令和元年度比			19.7%	32.8%	64.7%

健康づくり・介護予防のための教室について、感染拡大防止のための中止により、同様に令和2年度は実施回数、参加者数とも令和元年度と比べて大きく減少した。令和4年度の回数は令和元年度の水準に戻っているが、感染対策のため定員の制限を行っていたこと等から、参加者数が令和元年度の水準に戻っていないものが多い(表12-2)。

表12-2 市が実施する健康づくり・介護予防教室の実施状況

		R1	R2	R3	R4
シニア料理教室	実施回数	95	17	20	60
	延べ参加者数	4,689	293	328	1,944
栄養ラボ	実施回数	19	15	14	20
	参加者人数	2,006	309	412	566
元気で長生き食卓相談	実施回数	63	37	43	83
	参加者人数	2,676	127	145	211
筋力向上トレーニング教室	実施回数	396	396	396	395
	延べ参加者数	7,409	4,988	5,542	5,643
きたきゅう体操	実施回数	43	42	37	78
	延べ参加者数	673	538	307	691
ひまわり太極拳(タイチー)	実施回数	61	54	44	53
	延べ参加者数	1,184	630	440	616
ケア・トランポリン教室	実施回数	875	561	1,009	1,416
	延べ参加者数	10,089	4,751	9,135	14,504
公園で健康づくり	実施回数	25	26	19	18
	延べ参加者数	412	265	301	261
実施回数合計		1,577	1,148	1,582	2,123
実施回数対令和元年度比			72.8%	100.3%	134.6%
延べ参加者数合計		29,138	11,901	16,610	24,436
延べ参加者数対令和元年度比			40.8%	57.0%	83.9%

4 次期計画に向けた検討の視点

(1) 本市の背景・課題

高齢化等

○政令市中最も高齢化が進んでおり、75歳以上の後期高齢者の割合が増加している（2010年：約112,000人→2022年：約155,000人）。

○高齢者のいる世帯のうち、高齢者のみの世帯の割合が全国より高く、年々増加

○一人あたりの医療費が全国水準より高い。

○健康寿命の伸びは、平均寿命の伸びを上回っている。

コロナ禍における事業の中止や縮小、自粛生活の影響など

○通いの場へ参加している人のうち、コロナ前と比較して通いの場への参加頻度が「大きく減少した」「減少した」者の割合は、一般高齢者47.0% 在宅高齢者39.2%

○高齢者の閉じこもり傾向のリスクが増加 R元：25.6%→R4：29.1%

○健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがある一般高齢者の割合が減少（R元：62.6%→R4：59.6%）

その他の状況

○社会貢献や就労に意欲のある高齢者、健康づくり・介護予防に自ら取り組んでいる高齢者も多い。

○後期高齢者健診の受診率は伸びているが10%台である。

(2) 検討の視点

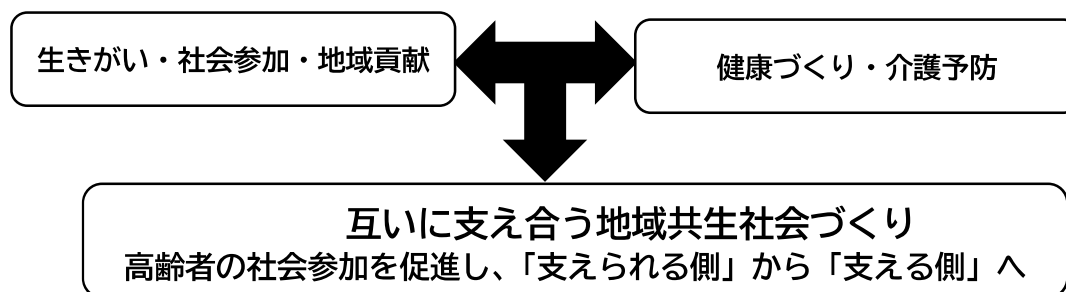
高齢化の進展による諸課題をふまえて、「元気で長生き」及び住民による支え合いの仕組みが重要。互いに支え合う地域共生社会づくりに向けて、

○多様な就労・社会参加ができる機会の提供（ICTの活用も検討）。

○社会参加を通じた、高齢者自身のいきがいや介護予防への効果などの視点をふまえ、高齢者が「支えられる側」から「支える側」へと住民主体の生活支援等の担い手となる取組推進が求められる。

<地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた視点*>（本分野におけるもの）

多くの住民が自分の強みや興味・関心に沿った社会参加の機会を得て、結果的に健康増進や介護予防につながっているか。



※：「地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた視点」出典

R5.3 ㈱日本総合研究所「効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール～地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて～」/（R4 老人保健健康増進等事業 採択事業[地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み状況の評価指標に関する調査研究事業]）